

事業報告

自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日

INFOSTA 2023 年度 理事 担務

2023 年 7 月 19 日

担務	担当理事
会長	清田 陽司
副会長	棚橋 佳子, 林 和弘
専務理事	吉野 敬子
会誌編集委員会	南山 泰之
研修委員会	澤田 大祐, 溝口 宗太郎
シンポジウム実行委員会	三枝 央, 増田 豊
試験実施委員会	青柳 英治, 岡安 渉子
CBT 分科会	松田 真美
広報委員会	松下 茂
西日本委員会	剣持 和江
地域活動	矢崎 美香
表彰者選考委員会	白井 瞭
著作権委員会	松下 茂
標準化委員会	安形 輝
ISO/TC37 国内審議委員会	安形 輝
ISO/TC46 国内審議委員会	安形 輝
パテントドキュメンテーション委員会	岡 紀子
OUG: ライフサイエンス分科会	吉野 敬子
SIG: 技術ジャーナル部会	谷川 淳
SIG: パテントドキュメンテーション部会	岡 紀子
SIG: 分類/シソーラス/Indexing 部会	吉野 敬子
SIG: ターミノロジー部会	吉野 敬子
3i 研究会	山中 とも子

2023 年度 事業報告

事業報告全般

2023 年度は、前年度から着手した協会運営体制の刷新を本格的に進め、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の実現と事業活動の活性化に取り組んだ一年となった。財政面では、収入 32,994,506 円、支出 40,629,858 円で、7,635,352 円の赤字となった（2022 年度は、収入 34,367,178 円、支出 30,986,508 円、3,380,670 円の黒字）。この赤字は、2023 年度の事業計画において掲げられていた「DX を推進するための事務体制の再構築への投資」を着実に実施したことによるものである。具体的には、2024 年度に予定している事務局体制の刷新（事務局移転を含む）の実現に向けて、高度な専門的知識を持つ外部事業者の協力を得るなど、将来を見据えた戦略的な投資を実行した。なお、最終的な赤字額は 2023 年度予算における赤字見込額（9,448,400 円）の範囲内に収まり、計画に沿った適切な投資管理が実現できた。

協会の最大イベントである INFOPRO は、20 周年の記念大会として、カレントアウェアネス・ポータルや PR TIMES を活用した周知活動を展開し、ハイブリッド形式で開催した。協賛企業数は前年の 6 社から 12 社へと倍増し、参加申込数も約 400 名と過去最大規模となった。また、検索技術者検定関連では、「サーチャー講座 21」において Vimeo を活用した動画のオンライン校正ツールを導入し、検索技術者検定 2 級対策のオンデマンド配信（動画 4 本）を開始するなど、デジタル化への対応を進めた。

対外活動においては、AI・人工知能 EXPO での人工知能学会とのコラボレーションによるミニワークショップの開催、図書館総合展でのポスター展示と仮想空間の設置、Code4lib Japan への参加など、関連団体との連携を強化した。また、「AI と著作権に関する考え方について（素案）」に関する意見提示や、「オープンサイエンスにまつわる論点」の Kindle 版刊行など、時宜を得た活動も展開した。

事務運営のデジタル化については、公式サイト WordPress への完全移行、メールマガジンの HTML 化、Canva の活用開始、AI リーガルチェックソリューションの導入など、情報発信力の強化と業務効率化を推進した。また、メールサーバー、メーリングリストシステム、チャットシステム、ファイルサーバー、会計システム（インボイス制度、電子帳簿保存法対応）の移行を実施し、会員管理システムの選定を行うなど、事務業務の基盤整備を着実に進めた。

各種セミナーについては、情報共有セミナー（URA、知財関係）の開催や新春セミナーのハイブリッド開催、委員長・会長のオフィスアワーの実施（Google Calendar appointment schedule 機能を活用）など、会員とのエンゲージメント強化に努めた。特に、Peatix の本格活用により、フォロ

ワー数が2023年4月の約40から2024年3月には約650へと大幅に増加するなど、デジタルプラットフォームを活用した情報発信の効果が表れている。

今後は、2024年5月に予定している事務所移転を契機として、さらなる事務運営体制の強化とデジタル化の推進を図り、協会活動の一層の活性化を目指していく。

会員異動

種別	2023年3月末	入会	退会	増減	2024年3月末
維持会員	36	1	4	-3	33
特別会員	64	1	3	-2	62
正会員	648	31	63	-32	616
準会員	2	1	0	1	3
合計	750	34	70	-36	714

社員総会

開催日：2023年6月28日（水曜日）

会場：TIME SHARING 茅場町 TQ 蛸殻町ビル

議題：

1. 2022年度事業報告および決算報告（審議）
2. 2023年度事業計画および予算案（報告）
3. 2023～2024年度役員選挙
4. その他

理事会

開催日：2023年5月24日

場所：Zoom

議題：

0. 前回議事録確認

審議事項

1. 2022年度事業報告（案）について
2. 決算報告（案），監査報告について

3. 会誌経営委員会の休会について
4. 日本学術振興会 育志賞の推薦募集について
5. 図書館総合展の出展について
6. その他

報告事項

1. 2023 年度役員候補について
2. 選挙管理委員について
3. 表彰者について
4. シンポジウムの開催形式について
5. 政府戦略分野に係る国際標準化活動について
6. その他

開催日：2023 年 6 月 9 日

場 所：Zoom

議 題：

審議事項

1. 2022 年度決算報告書（案）について
2. その他

開催日：2023 年 7 月 19 日

場 所：Zoom

議 題：

1. 2023 年度 代表理事，会長，副会長及び専務理事の選定について
2. 2023 年度 理事の担当について
3. その他

開催日：2023 年 10 月 11 日

場 所：Zoom

議 題：

審議事項

1. 検索技術者検定 1 級・2 級のコンピュータ試験の件
2. INFOSTA 奨励賞の件
3. 新規事業の件
4. 認知拡大の件
5. 業務遂行体制の変更の件
6. その他

報告事項

7. サーチャーター講座 21 の件
8. INFOSTA セミナー：ChatGPT を皆さんのお仕事に活用する実践的ノウハウの件
9. INFOSTA 情報共有セミナーの件
10. INFOPRO 2023 協賛の件
11. 会長・委員会 オフィス・アワーの件
12. 維持会員 親睦会の件
13. 第 25 回図書館総合展 2023 の件
14. Code4Lib JAPAN Conference 2023 の件
15. 日本薬史学会創立 70 周年記念座談会の件
16. 今後の開催予定の件
17. その他

開催日：2023 年 11 月 8 日

場 所：Zoom

議 題：

審議事項

1. 業務遂行体制の変更の件
2. 認知拡大の件
3. 受託事業に係る委員会等に対する海外出張旅費の支払いに関する要領 改正の件
4. その他

開催日：2023 年 12 月 5 日

場 所：Zoom

議 題：

審議事項

1. 検索技術者検定 CBT 化について
2. その他

開催日：2024 年 2 月 20 日

会 場：Zoom

議 題：

審議事項

1. 2024 年度 検索技術者検定（3 級）契約書の件
2. 2024 年度 役員（理事・監事）立候補・候補者推薦募集の件
3. 専門部会（SIG）等に関する件
4. AI 利活用研究会設立の件
5. その他

報告事項

1. 委員会委員選任の件
2. その他

開催日：2024 年 3 月 25 日

場 所：Zoom

議 題：

審議事項

1. 2024 年度 事業計画（案）の件
2. 2024 年度 予算（案）の件
3. 事務所移転の件
4. プロの検索テクニック 第 3 版 出版契約の件
5. 書籍販売の件
6. その他

報告事項

1. 2024 年度 役員（理事・監事）立候補・候補者推薦募集の件
2. その他

事業活動

刊行事業

会誌編集委員会

【総括】

2023年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げた。近年の社会情勢・技術動向の変化を反映して「サブスクリプションサービスが社会に与えた影響」(8月号)、「シチズン・サイエンスの現在地」(11月号)をはじめとする多様なテーマを取り上げた。「科学研究分野・学術コミュニケーションにおける言語問題」(6月号)においては、「AIを活用して英語論文を作成する日本語話者にとっての課題とその対策」に関するXの投稿が話題となり、最も伸びたポストは3,645 いいね、804 リポスト、30.6万回表示(2024年5月14日時点)を記録し、多くの方に見ていただくことができた。

また例年どおり、他の委員会と連携した企画を実施した。パテントドキュメンテーション委員会からは「10年後の知財情報検索への期待を込めて」(7月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第20回情報プロフェッショナルシンポジウム」(12月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、同シンポジウムの口頭発表者への投稿呼びかけを行って頂いた。さらに、2022年度より開始したTP&Dフォーラムとの会誌作成にかかる連携・協力を今年度も実施し、原著論文をはじめとする専門性・学術性の高い記事を掲載することができた(「整理技術・情報管理の世界(8月号)」)。2020年度より試行している研修委員会とのタイアップも継続しており、研修委員会が開催するセミナーの講演録執筆、掲載の呼びかけを行って頂いた(「広がるリテラシー教育(2月号)」ほか)。その他、SIG部会の活動報告執筆の呼びかけなども継続的に行っており、記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

【特集】

年	号	特集タイトル
2023	4月号	特別コレクションの整理と活用
2023	5月号	整理技術・情報管理の世界
2023	6月号	科学研究分野・学術コミュニケーションにおける言語問題
2023	7月号	10年後の知財情報検索への期待を込めて
2023	8月号	サブスクリプションサービスが社会に与えた影響
2023	9月号	図書館システムのお引越し
2023	10月号	ハイブリッド型情報提供の実際
2023	11月号	シチズン・サイエンスの現在地

2023	12月号	第20回情報プロフェッショナルシンポジウム
2024	1月号	イノベーション創出における人材育成
2024	2月号	広がるリテラシー教育
2024	3月号	学術コミュニケーションにおけるブロックチェーン技術

【その他】

新規連載として、「特許情報分析／解析／検索データベース」（全9回）、「実務者のための著作権お悩み相談室」（全7回、2023年度に5回分掲載）の記事を掲載した。不定期連載であるINFOSTA Forumは従前どおり掲載している（2023年度より会誌編集委員会対応）。

特集及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を12本、書評を11本掲載した。また、会員からの自主的な投稿を促進するため、2023年2月より非会員からの投稿を受け付け、及び査読基準の公開を実施している。

さらに、能登半島地震を受け、会誌の記事を当面の間（2024年1月から6か月程度を予定）無料公開することとした。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2023-4-5	定例委員会	Web会議
2	2023-5-10	定例委員会	Web会議
3	2023-6-7	定例委員会	Web会議
4	2023-7-5	定例委員会	Web会議
5	2023-7-22	定例委員会・企画会議	Web会議・日本図書館協会会館
6	2023-9-6	定例委員会	Web会議
7	2023-10-4	定例委員会	Web会議
8	2023-11-1	定例委員会	Web会議
9	2023-12-2	定例委員会・企画会議	Web会議・日本図書館協会会館
10	2024-1-10	定例委員会	Web会議
11	2024-2-7	定例委員会	Web会議
12	2024-3-6	定例委員会	Web会議

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2024年3月現在5名)を置いており、特集企画、連載企画への参画のほか、電子メール、企画会議への参加等を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。さらに、委員については外部のメーリングリストを活用した公募を実施し、新たに4名の委員が就任することとなった(2024年4月就任予定)。

また、DXの観点では、定例委員会のWeb開催、企画会議のハイブリッド(対面&Web会議)開催が定着した。さらに、プロジェクト管理ツールBacklogを導入し、効率化、定型化、ノウハウの蓄積・継承の観点から、編集作業の改善に着手した。過去の対応事例やマニュアルを検索可能な状態で運用できるようルール整備を進めている。

一方、2023年度より事務局体制の変更が生じ、書評記事やINFOSTA Forumに係る業務を会誌編集委員会が直接担うこととなった。さらに、2024年3月からは委員会実施に係る事務の多くを委員会が担うこととなった。上述した編集作業の改善やルール整備を通じて、今後はより一層適切に日常の会誌編集事業を運営していくための体制づくりに努める必要がある。

普及研修事業

研修委員会

【概要】

2023年度も、前年度に引き続き、主にオンラインでの研修となった。サーチャーク講座 21 についてはオンデマンドでの開催を試みた。

他の委員会等との連携強化にも努め、OUG ライフサイエンス分科会 400 回記念講演の開催を支援したほか、会誌と連動した研修を実施した。

前年度に引き続き、オンラインチケット販売サービス (Peatix) を活用し、事務局の事務負担を軽減するとともに、開催当日の飛び入り参加を可能にするなどのメリットを得た。

2024 年度は検索検定のリニューアルが行われるため、サーチャーク講座 21 の刷新が重要な課題となる。運営面に関しては、委員が引き続き減少傾向にあるため、活動の円滑な継続に足る委員の増強が喫緊の課題である。

【委員会開催状況】

以下の日程で開催した。

第 1 回 2023 年 4 月 26 日, 第 2 回 2023 年 6 月 8 日, 第 3 回 2023 年 8 月 21 日
第 4 回 2023 年 10 月 30 日, 第 5 回 2023 年 12 月 1 日, 第 6 回 2024 年 2 月 26 日
(いずれもオンライン開催)

【活動状況】

- ・ 2023.4.20 「学術文献データベースの将来を展望する」

(開催支援 主催：OUG ライフサイエンス分科会)

講師：宮入 暢子氏 (学術コミュニケーションコンサルタント)

オンライン開催

- ・ 2023.6.16 「基礎から学ぶ！情報収集・活用術：検索「超」入門 2023」

講師：原田 智子氏 (鶴見大学名誉教授)

オンライン開催

- ・ 2023.9.19～ 「サーチャーク講座 21 —検索技術者検定 2 級 対策—」

講師：岡 紀子 氏 (近畿大学)

阿部 潤也 氏 (東京歯科大学)

徳田 恵里 氏 (紀伊國屋書店)

田中 邦英 氏 (元 近畿大学)

オンライン (オンデマンド配信) 開催

- ・ 2024.1.19 新春セミナー 「インフォプロとコミュニケーション」

講師：知識 茂雄氏 (株式会社ハート・ラボ・ジャパン代表取締役)

オンサイト（日本図書館協会会館研修室）・オンライン開催

・2024.2.28「実務者のための著作権お悩み相談室 出張版～著作権法の基本から生成 AI に関する最新動向まで～」

講師：澤田 将史氏（高樹町法律事務所弁護士）

オンライン開催

シンポジウム実行委員会

(1) 委員会開催状況

▼ INFOPRO 2023 実行委員会（第9回以外、Zoom開催。毎回2時間程度）

第6回 2023年4月6日

第7回 2023年5月9日

第8回 2023年6月1日

第9回 2023年7月5日（JST東京本部別館）

第10回 2023年7月20日

▼ INFOPRO 2024 実行委員会（全てZoom開催）

第1回 2023年11月28日

第2回 2023年12月26日

第3回 2024年1月23日

第4回 2024年2月21日

第5回 2024年3月26日

(2) 2023年度活動状況

第20回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2023）を2023年7月6日、7日に科学技術振興機構東京本部別館で開催した。

初日はオンライン配信と現地会場でのパブリックビューイング、2日目はハイブリッドに移行し、2019年の第16回開催以来4年ぶりに発表者と聴衆が同じ空間で対面するイベントとしての復活を果たした。INFOPROとして初めてのハイブリッド開催となり、運営側の負担は増えたが、委員会メンバーと事務局の協力のもと、スムーズに進行することができた。

20周年の節目を迎え『インフォプロとサステナビリティ』をメインテーマに掲げ、トーク&トークに趣旨を反映し考察を促した。INFOPROのWebサイトも協会のサイトから独立してリリースし、従来よりもデジタル化した広報アプローチを取り入れた結果、参加者も約400名に達しそのうち過半数が非会員だった。

また、協賛企業に関してはプラチナ8社、ゴールド4社と例年よりも増え新たな業種からの参加が得られた。

- 特別講演『次世代リーダーの役割と思考法』
- トーク&トーク『インフォプロの将来を改めて問う～多様なステークホルダーからの視点～』
- OUG ライフサイエンス分科会特別企画
- テーマ：医学分野のプレプリントの文献データベース収録

- 一般発表（12件）
- プロダクト・レビュー（8社）
- 情報交流会（対面式）
- 参加者数 約 400

（3）INFOPRO 2024 に向けての活動

第 21 回大会も、ハイブリッドでの開催を予定している。AI の利活用に対する関心の再燃を受け、メインテーマを『シン・インフォプロ ～AI と再び向き合うときがきた～』をメインテーマに掲げ、AI の恩恵をインフォプロがどう生かすか模索する場にすることを目指している。

多くの聴講者を得るために参加費を無料にするほか、予稿集の締め切り期日を延ばし一般口頭発表を応募しやすくし、内容を充実させる方針で準備を進めている。

試験実施委員会

昨年に引き続き、各委員会・分科会はいずれも Zoom によるオンライン開催となった。

1) 試験実施委員会

① 委員会開催状況と主な議題：

- 第 222 回 (2023-04-12) 試験の広報、CBT 化検討他
- 第 223 回 (2023-04-27) 2023 年度試験実施の振り返り他
- 第 224 回 (2023-05-17) 対策セミナー検討、CBT 化検討他
- 第 225 回 (2023-05-31) 受験案内関連検討、CBT 化検討他
- 第 226 回 (2023-06-15) 2023 年度試験検討、CBT 化検討他
- 第 227 回 (2023-08-09) 2023 年度試験検討、CBT 化検討、試験制度の変更告知、Google Workspace 移行他
- 第 228 回 (2023-09-25) 2023 年度試験検討、CBT 化検討他
- 第 229 回 (2023-10-19) 2023 年度試験検討、CBT 化検討、試験の広報、Google Workspace 移行他
- 第 230 回 (2023-11-06) 2023 年度試験検討、CBT 化検討他
- 第 231 回 (2023-11-22) CBT 化検討他
- 第 232 回 (2023-12-13) 2023 年度 2 級合否判定、CBT 化検討他
- 第 233 回 (2024-01-11) 2023 年度 1 級一次合否判定、CBT 化検討他
- 第 234 回 (2024-01-24) 2023 年度 2 級合否判定、CBT 化検討、3 級試験検討他
- 第 235 回 (2024-02-13) 2023 年度 1 級二次合否判定、CBT 化検討他
- 第 236 回 (2024-03-11) CBT 化検討、2024 年度試験検討他

② 活動状況

(1) 2023 年度検定試験実施状況報告

2023 年度の「検索技術者検定」試験は、1 級一次試験と 2 級が例年とほぼ同時期の 2023 年 11 月 26 日（日）に札幌・東京・名古屋・大阪・福岡で、1 級二次試験は 2024 年 2 月 11 日（日）にオンライン方式で実施した。3 級は 2023 年 8 月 1 日（火）～2024 年 1 月 31 日（水）に全国 47 都道府県の約 200 会場から選択可能な J-Testing 試験センターで CBT 方式により実施した。

2023 年度の総受験者数は 459 名(前年 498 名)で、2022 年度と比較すると約 40 名減少した。また、3 級については、2022 年度と同様に 2023 年 8 月 1 日（火）から 2024 年 1 月 31 日（水）までの 6 カ月間実施、受験者数は 2022 年度より 25 名減少した。

会誌への合格者の氏名掲載について「載せない」を希望した人が 3 級は 29.1%(前年 36%)、1 級、2 級を含めて個人名を出したくない人が一定割合いる傾向である。

受験者数推移は以下の通りである。

年度	総受験者数	1級	2級	3級
2020年度	539名	18名	150名	372名
2021年度	614名	10名	159名	445名
2022年度	498名	9名	112名	377名
2023年度	459名	9名	98名	352名

(2) 広報関連

サーチャークラウド講座 21 は、2023 年 9 月 19 日（火）～11 月 25 日（土）を Vimeo によるオンデマンド配信で実施した。

ホームページの見直しを行い、更新対応を継続している。

10 月 24 日～25 日パシフィコ横浜で開催された 2023 年度 図書館総合展でポスターセッションに出展し、協会の活動紹介と合わせ検定試験のポスターを提示した。また、図書館総合展メルマガ 1 月 18 日号、1 月 25 日号に検索検定試験の案内を掲載した。

2024 年度からの新たな検索技術者検定 1 級・2 級の試験制度および試験方法の変更については、会誌「情報の科学と技術」2024 年 1 月号、INFOSTA ホームページにおいて 2024 年 1 月 1 日に告知を掲載した。

2024 年 3 月発行の日本図書館協会主催「第 109 回 全国図書館大会 岩手大会記録」の協賛広告へ試験案内を掲載した。

(3) 委員拡充方策の検討

2023 年度は 1 名の試験実施委員の増員があった。引き続き作問委員、実施委員の増員方策の検討を継続している。

(4) 1 級・2 級 CBT 化の検討

既に CBT 化を実現した 3 級に続き、1 級と 2 級の CBT 化について、2024 年度からの試験制度、試験方法の改訂に向けた具体的な検討を行った。

(5) 委員会以外の活動

合格者を祝う会は、2024年3月15日（金）に東京会場では対面で、3月16日（土）に大阪会場では対面・オンラインで開催した。

対象は、2023年度の試験合格者で東京・大阪会場合わせて5名(前年10名)の合格者が参加した。

2) CBT 分科会

① 委員会開催状況と主な議題

第16回（2023-04-17）大学教員向け広報関連、外部試験サイト関連、J-Testing システム関係

第17回（2023-06-12）大学教員向け広報関連、J-Testing システム関連

第18回（2023-07-31）大学教員向け広報関連

第19回（2023-09-11）大学教員向け広報関連

第20回（2024-01-15）広報、受験状況の確認、試験制度改訂関連

第21回（2024-02-22）広報、3級試験受験者データ分析、2024年度試験関連

第22回（2024-03-21）広報、3級試験受験者データ分析、2024年度試験関連

② 活動状況

広報関連：以下を実施した

2023年度も2021年度・2022年度同様に、維持会員、特別会員のほか、司書講習開講大学、大学の司書課程で特に情報検索の内容を主に担当している186大学359名の教員宛てに、DM(ポスター、受験案内、3級チラシ)を送付した。

公式YouTubeチャンネルにて公開している3本の動画「試験勉強の仕方」「試験概要」「体験版」を更新

ウェブサイト、3級のA4チラシ更新

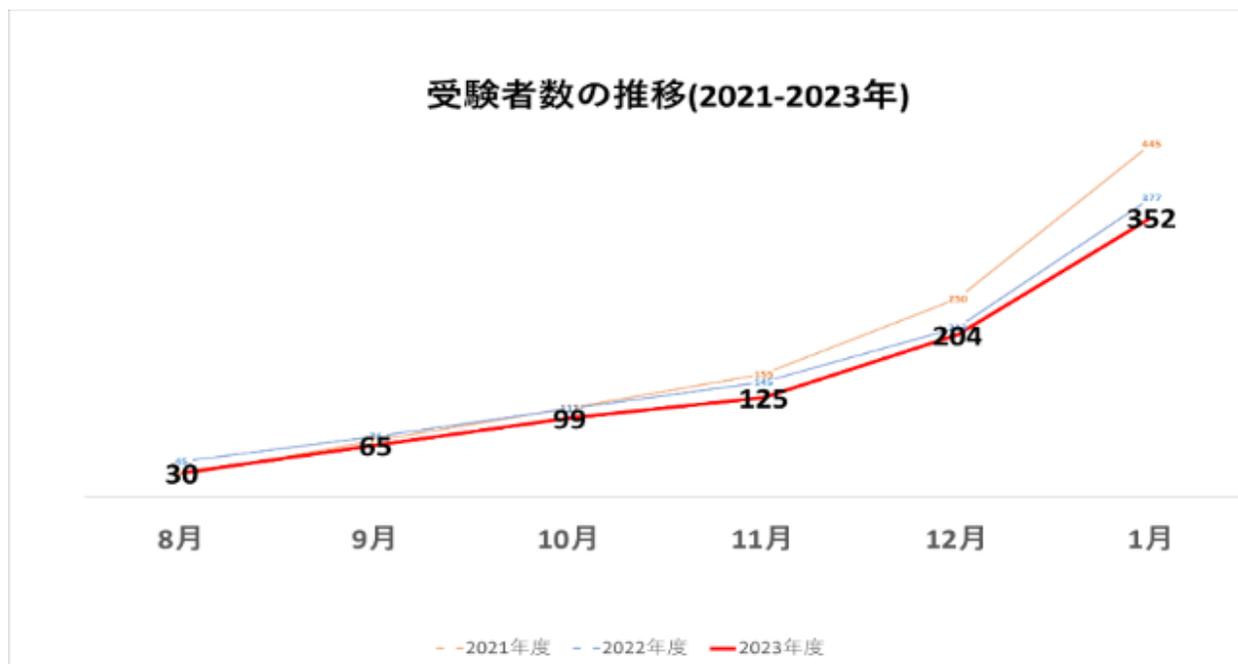
広報委員会の協力のもとSNS(X(Twitter)、Facebook)にて随時情報発信

三役および事務局と連携し、申し込み状況の把握と対応の検討、問い合わせ対応、システムの設定変更、契約更新の手続きを行った。

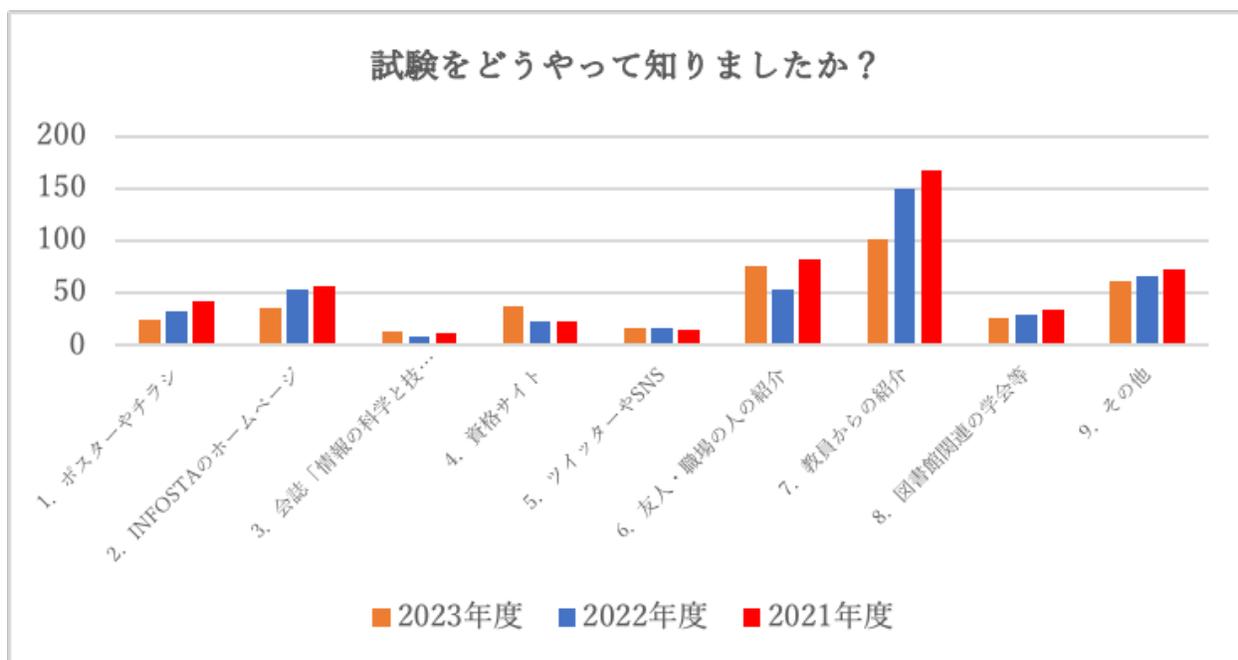
(参考) 3級試験 受験者分析

- ・ 2021年度～2023年度の3年間の受験者分析から受験期間終了間近に駆け込み受験者が多い傾向が見える。(図1)
- ・ 受験のきっかけは2022年度、2023年度ともに「教員からの紹介」が圧倒的に多く、次いで「職場の人の紹介」、「INFOSTAのホームページ」「ポスターやチラシ」の順である(図2)
- ・ 受験者の主な属性・所属は「図書館」が最も多く、ついで「大学生」「企業」はほぼ同数である。(図3)

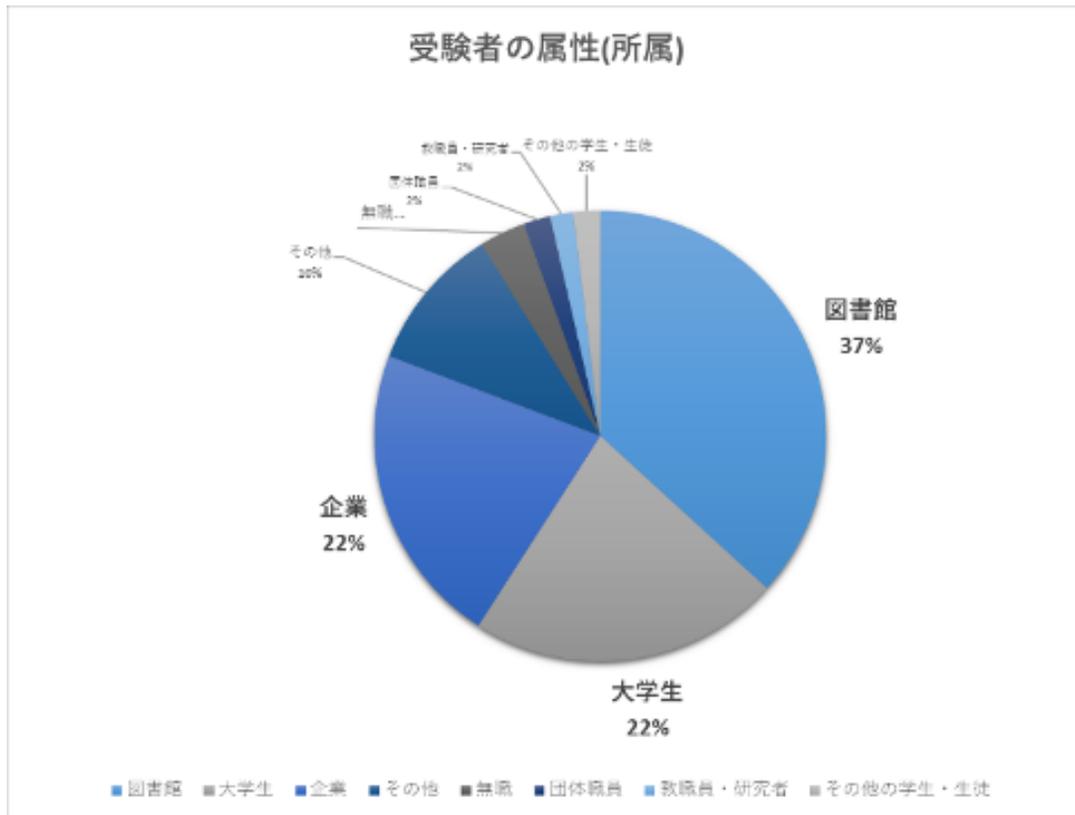
- ・「大学生」の受験者は INFOSTA に関連が深く PR してくださる教員の在籍する大学の学生に限定されている傾向があり、属人的ともいえるだろう。
- ・受験者数の拡大は引き続き今後の課題である。



(図1) 受験者数の推移 (2021年8月-2024年1月)



(図2) 試験を知ったきっかけ



(図3) 受験者の属性

その他委員会活動・プロジェクト

広報委員会

1. 委員会開催状況

- 2023 年度第 1 回委員会 2023 年 4 月 11 日（火）18:00～19:45
- 2023 年度第 2 回委員会 2023 年 7 月 18 日（火）18:00～19:40
- 2023 年度第 3 回委員会 2023 年 9 月 20 日（水）18:00～19:40
- 2023 年度第 4 回委員会 2023 年 11 月 28 日（水）18:00～19:30
- 2023 年度第 5 回委員会 2024 年 1 月 24 日（火）18:00～19:15

2. 活動状況

- 協会の各活動、検索検定の予定をフォローアップするために X と Facebook で情報を発信した。
- また発信にあたっては、三役及び他の委員会の協力を得た。
- 他方、X や Facebook への発信については、参加者数限定企画への投稿の必要性の有無、協会 HP お知らせ欄掲載や会誌による告知との連動の確認、案件による掲載のタイミングなどについては、関係者間でのコミュニケーションの必要性を強く感じた。
- 全国図書館大会記録への広告を作成し掲載の手続きを行った。
- 紙媒体のリーフレット改訂については、修正箇所が多いため引き続き紙媒体での発行を行うのかまたそのタイミングをどのようにするかについて、理事会で検討を頂く事とした。

なお、2024 年 3 月 31 日時点で、X のフォロワー数は 505 人、Facebook の「いいね」は 118 件・フォロワー数は 136 人、YouTube のチャンネル登録者数は 149 人、Peatix（イベント・コミュニティプラットフォーム）のフォロワー数は 659 人で、それぞれ 2022 年度より増加した。

西日本委員会

①委員会開催状況

2023-04-18：第 219 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

2023-06-13：第 220 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

2023-08-21：第 221 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

2023-10-16：第 222 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

2024-02-26：第 223 回西日本委員会（Zoom によるオンライン会議）

②活動状況（理事会に報告すべき事項）

2023-9-19～11-25：サーチャーズ講座 21（研修委員会と協力して Vimeo システムによるオンデマンド配信）

2023-11-26：検索技術者検定試験実施にあたり、大阪会場の運営に協力

2023-12-13：見学会（ぎふメディアコスモス）参加者 6 名

2024-03-16：検索技術者検定「合格者を祝う会」（大阪科学技術センター）参加者 15 名（ハイブリッドで開催）

※「人と情報をつなぐ西日本インフォプロ交流会」（旧じょいんと懇話会）は、開催方法も含めて継続検討中。

表彰者選考委員会

2023年3月31日の第一回委員会を受けて、第二回4月14日、第三回5月12日の委員会において、下記のリストを第48回協会賞の候補者として選考し、5月24日の理事会に提議した。また同時に、「奨励賞」を新設するために審議し、表彰規定の改定案を提議し、「奨励賞」を第49回の選考より始めることとした。

2024年度に向けての推薦募集は、2024年1月号2月号会誌およびメルマガにて行った。推薦の方法は、2024年度推薦より初めてウェブページから募り、会員からの2024年2月15日をもって締め切られたが、会員からの推薦は寄せられなかった。2024年度の表彰者選考委員会は、2024年3月28日に第一回を行い、2024年度の選考が始められた。

○情報業務功労賞

松田 真美 氏（特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会）

○教育・訓練功労賞

豊田 恭子 氏（北海学園大学）

○研究発表賞

該当者なし

○優秀機関賞

大宅壮一文庫

○協会事業功労賞

長田 孝治 氏（ロゴヴィスタ株式会社）

○名誉会員

小野寺 夏生 氏（筑波大学名誉教授、文部科学省科学技術・学術政策研究所）

○永年会員

山崎 久道 氏（前 情報科学技術協会会長）

田村 紀光 氏（元 情報科学技術協会事務局長）

著作権委員会

1. 委員会開催状況

- 2023 年度第 1 回委員会 2 月 1 日（金）10:00-11:00 オンライン開催
- 2023 年度第 2 回委員会 2 月 5 日（火）16:00-17:00 オンライン開催

2. 活動状況（理事会に報告すべき事項）

- この 1 年間は、情報の共有以外では上記の委員会を開催した。2 回の委員会では、文化庁著作権課による「AI と著作権に関する考え方について(素案)」に関する意見募集の実施について(意見募集要領)」（パブリックコメント）に意見を提出することを目的とした。
- 意見提出は、委員会で案を作成して三役の承認を得て 2 月 12 日に提出した。
https://www.infosta.or.jp/posts/pc_opinioncontext_20240212/
- また専門図書館協議会著作権委員会とは情報の交換をメールベースで行い、令和 5 年 6 月 1 日に施行した図書館による公衆送信を可能とした著作権法の一部改正に基づく文化庁の通知と一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）の設立情報を共有した。
<https://www.sarlib.or.jp>

標準化委員会

- 1) 標準化委員会開催: 1 回 (対面+オンライン) 2023-09-06

- 2) 国際標準化 ISO/TC 37 および TC 46 の国内審議
 - ・ ISO/TC 37, ISO/TC 46 の国内審議団体の事務局としての活動
 - ・ 令和 5 年度政府戦略分野に係る国際標準化活動「テーマ名: 翻訳プロジェクト策定プロセス、観光通訳 および情報付与プロジェクト管理に関する国際標準化」を実施

- 3) JIS 策定
 - ・ JIS X 0306:2023 国際標準逐次刊行物番号 (ISSN)
 - ・ JIS X 30300:2023 記録管理－基本概念及び用語,
 - ・ JIS X 30301:2023 記録のマネジメントシステム－要求事項

- 4) JIS 見直し
 - ・ JIS X 0806:1999 情報検索 (Z39. 50) 応用サービス定義及びプロト コル仕様 **【確認】**
 - ・ JIS X 0807:1999 電子文献の引用法 **【確認】**
 - ・ JIS X 0902-1:2019 記録管理－第 1 部: 概念及び原則 **【確認】**
 - ・ JIS X 0305:2020 国際標準図書番号 (ISBN) **【確認】**

パテントドキュメンテーション委員会

1. 会誌 2023 年 7 月号の知財特集を発行した。
特集：10 年後の知財情報検索への期待を込めて
2. 会誌 7 月号の発行後は 2024 年 7 月の知財特集に向けてテーマ選定及び執筆者の検討を進めた。
3. 今後の特集号に向けて、知財・検索・調査等についての情報収集と情報交換を行った。

研究活動

日本オンライン情報検索ユーザ会 (OUG: Online Users Group)

ライフサイエンス分科会

(主査：廣谷 映子 氏、第 401 ～409 回；計 9 回開催、開催月と内容)

- 4 月 第 400 回記念 宮入暢子氏 講演「学術文献データベースの将来を展望する」
- 5 月 INFOPRO 2023 発表内容検討①
- 6 月 INFOPRO 2023 発表内容検討②
- 7 月 第 20 回情報プロフェッショナルシンポジウム INFOPRO 2023 内 OUG 企画
”医学分野のプレプリントの文献データベース収録“
- 9 月 日本初プレプリントサーバ Jxiv (ジェイカイブ) のご紹介
- 11 月 生成系 AI に関して情報交換
- 12 月 引用内容分析サービス Scite のご紹介
- 1 月 検索演題：2023 年度検索検定試験問題を解く
- 2 月 折井孝男氏 講演「医薬品情報の DX：標準化や国内外事情」

専門部会 (SIG: Special Interest Groups)

技術ジャーナル部会

(会員企業：4→3社。コアパーソン：持ち回り。計4回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

【議題】

1.各社現状発表

- ・ 5月度：1. ウェブアクセシビリティへの対応
2. デジタルツールを用いた編集作業の効率化
- ・ 8月度：1. 冊子継続について
2. AIの活用について
3. ダイバーシティ対応について
- ・ 11月度：1. 技報の編集手順について
2. 技報の作成スケジュールの効率化について
 - ・ 2月度：1. 技報冊子（紙媒体）のメリット・デメリット、Webとの違いや使い分け方法を考えよう
- 2. 技報に掲載された技術情報のアフターフォローを考えよう

2. 技術ジャーナル部会への新メンバー勧誘についての検討

5月度、8月度、11月度

パテントドクメンテーション部会

(会員: 4名 コアパースン: 桐山 勉 毎月開催)

1. INFOPRO 2023 において、一般口頭発表として「海洋プラスチックごみ問題に関する特許分析研究-世界の海洋問題の課題の解の特許情報から探る」の1件を発表した。
2. 外部知的財産団体への協力: INFOSTA-PD 委員会に1名参加派遣。
会誌「情報の科学と技術」7(7)の特許特集号の企画に参加。
3. メンバー間のトピックス情報の交換
米国 PIUG 2023、EPOPIC 2023、CPAC 2023 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加したもの相互紹介。
4. プロバイダーデモ勉強会への参加と実施。
アイ・ピー・ファイン社の知財 AI 活用研究会(第6期)にメンバーの一人が顧問 Adviser として参加した。
5. ポストコロナでも、テレワークの Zoom 形式で、PDG 部会を毎月実施した。
2023年4月から2024年3月まで、毎月、PDG 部会を Zoom 形式で2時間実施し、SIG 開催報告を事務局に提出した。

(コアパーソン：山崎 久道 氏 6 回開催)

回	開催日	テーマ	会場
1	2023/5/19	NDC-MRDF についての紹介と検討。その利用可能性と問題点について討論。	愛知大学 霞が関オフィス
2	2023/7/21	1) ISO 25964-2:2013 (ver. 2) “Information and documentation Thesauri and interoperability with other vocabularies Part 2: Interoperability with other vocabularies”の定期見直しについて 2) Nuopponen2022 による関係表示にを用いた、日経シソーラス【家庭生活】の検証。	愛知大学霞ヶ関オフィス+WEB
3	2022/9/16	最近のインデクシング関連記事や書籍の紹介、「索引 への歴史」(“Index, a History of the”の邦訳書)についての原書を知った(昨年1月の部会で紹介、討論済み)うえでの批判的検討。	愛知大学霞ヶ関オフィス+WEB
4	2023/11/10	“Index, a history of the”の複数個の書評を比較したうえでの討議。原書に対する英語の書評が多かった。数は少ないものの日本語の書評も対象とした。	愛知大学霞ヶ関オフィス+WEB
5	2024/1/26	JST シソーラスの改訂予定について。日経シソーラスの性格付けについての討論	愛知大学 霞が関オフィス
6	2024/3/15	通算 375 回を記念しての例会。会員のこれまでの参加への謝意を表するとともに、過去の活動を振り返って現状と今後を展望した。	都内イタリア料理店 内会場

- ・日経シソーラスの評価検討について、検討を継続した。
- ・シソーラスの本体や基準の改訂について目配りし、必要な議論を行った。
- ・この分野で最近発行された本の中で、索引の重要性を明快に指摘した“Index, a history of the”につき、私たち、つまりこの分野の専門家として各自の持てる知見や経験から意見を交わし、索引の本質について議論した。とくに、本書が一般読者を想定しながら、専門家の評価にも耐えうる内容になっている点に注目した。

ターミノロジー部会

(部会員：4名　　コアパーソン：長田 孝治 氏　年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実務に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2023年度はコロナウィルスの影響もあって、主として ISO 10241-2:2012 (Terminological entries in standards — Part 2: Adoption of standardized terminological entries) の翻訳版の出版に向けての調整会議を主体に実施した。結果として2023年9月に日本規格協会より英和対訳版が出版された。

また ISO 10241-2:2012 は日本提案が母体となって制定された規格であるが、事例が少ないなど改定要望が各国から寄せられたため、この改定に向けての勉強会を開始した。

3i 研究会 (Information, Infrastructure, Innovation 研究会)

1. 研究会開催報告：

2023 年 4 月、5 月は第 9 期、6 月から 2024 年 3 月までは第 10 期の活動を行った。

毎月第 3 木曜日 (18:30-20:30) にすべてオンラインで 12 回開催。

2. 活動状況

- ・第 9 期に引き続き、第 10 期も同じグループサポーターの協力を得て、研究会活動を行った。
- ・サポーターにはグループの活動をサポートするだけでなく、毎回スキルアップのためにミニ講義も開催していただき、有意義な活動をすることができた。
- ・参加者は 9 名 (うち 1 名業務都合で途中退会) で、3 グループで活動した。
- ・データベースは前年に引き続き JDreamIII、JDream Innovation Assist (文献検索データベース、論文・特許・新聞記事検索・分析データベース：(株)ジー・サーチ)、パテントマップ EXZ (特許解析ソフト：インパテック(株))、CKS Web(特許検索システム：中央光学出版(株))を無料で貸与していただき、研究活動に活用することができた。
- ・研究成果は、情報プロフェッショナルシンポジウムでの発表予定である。